

清流が戻ってきた田倉川水源

森典雄古老の証言

毎日川と共に暮らしてきた小倉谷の森さん(写真右下)に2007年12月20日インタビューしました。

戻ってきたアジメドジョウ 瀬戸集落の下で、清流を好む15cmの大物アジメドジョウを匹釣り上げました。アマゴ釣りに偶然釣れ、開いて塩焼きして食べました。とても美味だったそうです。



20年前はアユが豊富に釣れました。芋ヶ平川にも遡ってきましたが、2~3年前からアユは溯ってきません。アユ釣り人の姿も社谷付近から見られなくなりました。10年ほど前からはウグイが多く生息しはじめました。下水ができる前は40cmの大物(マルタ)が多かったです。数年前からそのウグイの姿が消え最近ほとんど見ていないそうです。代わって2年前からアマゴが釣れだしました。去年は水量が非常に少なかったのですが、多留美橋から谷出川の合流までの1km程度の区間で沢山釣りしました。29cmの大物も釣れました。9割がアマゴであとはヤマメだそうです。アマゴ、アジメドジョウが生息する清流環境に変わったといえます。



森さんは、水質調査に来た研究員に尋ね、溶存酸素(DO)が90%と飽和状態で、鉄分、ミネラル分が多く含まれたアルカリ性の河川水だと聞き取りました。漁協は、毎年高倉谷川、芋ヶ平川、多留美川にアユ、アマゴ、ヤマメの稚魚を放流しているそうです。アユは放流されても大水で流されて再び戻っては来ないのではといいました。ところが

アマゴの生息はとても活発だといえます。

川人のアマゴ料理は多様 森さんは、塩焼き、刺身、アラのみそ汁、ぬた、フライ、天ぷらなどに料理します。冷凍保存も上手です。解凍すると新鮮さが美しくよみがえってきました。(写真)



昔はアマゴの姿すしをアブラギリでくるんでつくりました。再びつくれると喜んでいますが。古木の面谷さんは、アユの姿すしをつくっていましたが最近捕れないのでつくっていません。

サクラマスは溯ってくる。日野川中流の鯖江市、越前市流域では、床止工の魚道の見直しが進められています。すでに3箇所が新設されました。サクラマス、サツキマスやアユの海からの溯上もまもなくだと期待しています。日野川漁協の話や、八乙女頭首工工事のとき行った魚類調査によると、天然の魚がかなり多く越前市付近まで遡上しているのが報告されています。50年ぶりに大物魚サクラマスが源流を目指して帰ってくるのも近いと思います。



日野川流域交流会とふくい里地里山ネットワーク連絡会は連携し、水源集落瀬戸の住民(代表伊藤武男0778-45-2133)と都市住民の交流を行っています。今春大鶴目谷から古木山越えてアカタンへのルートと高倉谷川の水源の道登山をします。高倉谷川は、ブナ原生林の水源、木地師の道、塩の道の古道歴史的価値の高い明治の砂防堰堤群、高倉谷峠を訪ねます。そして水源集落の川人、山人たちの暮らしを体験したいと計画しています。都市住民の参加を歓迎します。希望者は下記 e-mail に申し込んでください。ご案内します。

環境文化研究所 田中 yasushi@geology.co.jp